

# プロジェクト科目 議事録

2007年 1月 14日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 B	学生 ID -
日時	2006年 8月 28日(月) 14:00 ~ 17:30
場所	同志社びわこリトリートセンター セミナー室1
議題 第2回WSの企画プレゼン大会	
参加者 A、B、C、D(16:30から参加)、G、H、T、TA	
記録 【使用機材】 <ul style="list-style-type: none"><li>・記録用ビデオカメラ</li><li>・プロジェクター</li><li>・スクリーン</li><li>・ノートパソコン</li></ul> <p>《第2回WSの企画プレゼン大会》</p> <p>参加者がそれぞれ考えてきた第2回WS企画案を持ち寄り、プレゼン大会を行った。 各自持ち時間は7分。</p> <p>更に、以下の採点基準を設け、互いに点数をつけながらプレゼンを聞き、最終的に総合得点の一番高かった者の案を採用することになった。</p> <p>&lt;採点基準&gt; (すべて5段階評価で行う)</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) コンセプト</li><li>2) 方法</li><li>3) 計画性(時間、予算等)</li><li>4) 企画書としての内容</li><li>5) プレゼンの技術(時間も含めて)</li></ol> <p>以下、各自の企画書を抜粋した内容を参考に記載する。</p> <p>1. Hのプレゼン</p> <p>○企画のコンセプト</p> <p>「能の表現方法を知る」</p> <p>第1回WS同様、体験を重視したWSで児童の興味を引き付ける。その上で、第1回</p>	

よりも内容を本格的なものにすることによって、実際の能の動きを知ってもらい、新たな能の見方を提供する。

#### ○企画の内容

- ・ 11月から12月の中頃までにWSを実施。
- ・ 所要時間は2時間。
- ・ 1時間は能面（材料は紙）を作成し、残りの1時間で能楽師から能における基本的な動作を学び、能面をつけて役を演じる。
- ・ 能面については事前学習にて予備知識を学んでもらう。

### 2. Aのプレゼン

#### ○企画のコンセプト

- ・ 「愛好家の卵を作る」という年間コンセプトの達成。
- ・ 第1回WSの次のステップとして、更に能の魅力を伝える。
- ・ 最終目標は、「舞台を見に行こう！」

#### ○企画の内容

2回に分けて行う。

##### ①紙芝居

- ・ 10月下旬頃実施。
- ・ 実際の能の演目を紙芝居にし、観能へのステップとして物語の内容を知ってもらう。
- ・ 前回の『羽衣』よりも上演回数が多い謡曲を選び、内容を易しくして小学1～3年生の児童いずれもが理解できるようなものを目指す（WS後に小学校に寄贈したときに、どの学年でも使用してもらえるようにするため）。

##### ② 能楽師による解説

- ・ 11月から12月に実施。アリーナ（体育館）で行う。
- ・ ①の紙芝居を1～2名の能楽師に解説してもらって謡の講習を行い、可能であれば能楽師に装束を付けて登場していただくことによって、紙芝居と能をつなげる。

☆全体として、今回は体験よりも座って見ることを中心に行う。

### 3. Cのプレゼン

#### ○コンセプト

紙芝居で物語の内容を児童に把握してもらい、その上で本格的な能を見せることで、能の迫力を知ってもらうとともに、能が理解できるものであると知ってもらう。

#### ○企画の内容

##### ①ミニWS

- ・ 11月後半に実施。アリーナで行う。
- ・ 1時間の内容を、能プロメンバーによって行う。
- ・ 第1回WSの映像を流し、第1回WSで扱った『賀茂（加茂）』の詞章を改めて分かりやすく説明する。
- ・ 謡曲『道成寺』を紙芝居（未定）で新たに読み聞かせ、面や道具、舞台の写真も紹介する。

#### ②「第2回WS 実際の能にTouch!!!」

- ・ 12月半ばに実施。約2時間。
- ・ 紙芝居『安宅』で、能『安宅』の一部の場면을説明する
- ・ 実際に能『安宅』の一部を上演する。

### 4. Bのプレゼン

#### ○コンセプト

「児童によるDIY (Do It Yourself) WS」と題し、準備段階から児童に主体的に参加してもらうことで、興味を持ったことに対して自ら積極的にアプローチしていくという姿勢を学んでもらいたい。その過程で、“伝統芸能である「能」”をあらゆる面から見つめてもらい、能を知らない人に説明できるようになるのが理想である。

#### ○企画の内容

##### ①事前学習

- ・ 11月初めから半ばに実施。
- ・ 各クラスで数グループに分かれて能に関する学級新聞を作成する。資料等は能プロが用意するが、内容は基本的に児童に任せる。
- ・ その後、クラス単位で発表会を行う。

##### ②WS

- ・ 12月初旬に実施。
  - ・ 事前学習をもとに、WSで行う主な内容を決定し、WSで使用する鏡板の松の絵、扇、謡本、能楽紹介のボードなど(この中から1、2点)を児童が制作する。
  - ・ 児童メインの発表会形式のWSをアリーナで実施する。(保護者の参観あり)
- ※第1回WSでは我々が用意したものに児童が参加する形を取ったが、今回は児童が作り上げるあくまで「手助け」という立場を取る。

### 5. Gのプレゼン

#### ○コンセプト

第1回WSでは児童に能の具体的なイメージを構築させることが出来た。第2回WSでは一歩進んで、「能特有の魅力」を伝えたい。

☆能は時代や国によって変わることのない人間そのもの、情念そのものを表現しようと、極限までその演技を抽象化してきた歴史を持つ。そこで扱われている普遍的な「感情表現」を、今回は能特有の魅力としてピックアップする。

#### ○企画の内容

WS「能の感情表現を体験してみよう」

<大まかな枠組み>

謡曲『安宅』、『道成寺』を題材とし、ある一場面（人間の感情が顕著に表れていて、なるべく型を真似するのが容易な部分）を抜き出し、そこに描かれている登場人物の感情を児童が興味を持つような方法で体験させる。

#### ①事前学習

- ・『安宅』『道成寺』のあらすじを紙芝居で説明する。
- ・図工の時間などを利用して、画用紙・リボンで各自面を作る。
- ・『安宅』『道成寺』の装束を説明する。

#### ②WS当日

- ・『安宅』グループと『道成寺』グループに分かれる。（後で交替する）
- ・能プロメンバーによる各場面の説明。
- ・演劇サークルによる各場面の現代風の感情表現の発表。
- ・能楽師による各場面の感情表現（型・面の動きで）
- ・児童による各場面の感情表現の体験
- ・『安宅』は直面、『道成寺』は面を付けて演技する。

### 6. Dのプレゼン

#### ○コンセプト

最終目標の「愛好家の卵をつくる」に出来るだけ近づけるため、能を見てみたい！やってみてみたい！と思えるよう、児童に鑑賞意欲・実演意欲を持たせる。

#### ○企画の内容

- ・能を構成する要素を一連の流れで把握することを目的とする。
- ・事前学習は、観能・紙芝居『安宅』でのストーリー把握・扇の作成・面の作成の中から小学校と相談のうえ、実施する（回数未定）。
- ・本番は児童が自ら作った扇と面で演能する（形式は第1回WSと同様に）。
- ・体験を繰り返し行うことで、刷り込み効果を狙う。

<結果>

各自プレゼンが終わった後、それぞれが採点したものを集計した。

※Dが途中参加だったため、採点した人数が違い、総合得点はいくまで参考となった。

その結果、1位がG、2位がBとなり、Gの案が基本案として採用されることとなった。